

卒業感想

尹紅梅

あっという間に、日本に来てもう二年が過ぎました。圧縮されたような二年間で、色々な出来事がありました。収穫ももちろん多くありました。ここでは、私の大学院受験の心得を皆さんにお伝えしたいと思います。自分の夢を叶えるために一生懸命頑張っている皆さんの役に立てれば幸いです。

私は青島理工大学室内環境デザイン専攻を卒業し、2011年5月9日に来日しました。現在武蔵野美術大学大学院造型研究科デザイン専攻工芸デザインコースに在籍しています。日本に来たばかりの頃、日本語が下手で周りのことも何も分かっていませんでしたが、進学への情熱だけは人一倍にあり、様々なルートで美術系の大学院の情報を収集してきました。そして、「武蔵野美術大学」を希望校に決めました。6月と8月に開催された大学のオープンキャンパスに参加させて頂き、進学に関する貴重な情報を得ることができました。オープンキャンパスでは、在学生の作品展示コーナーと進学相談コーナーなどがあって、直接在学生に受験、学校生活などの話を聞くことができます。また、その日に殆どの教授がいらっしゃるようで、アポイントメントを取らずに、教授と面会して受験のことも聞くことができます。この貴重なチャンスを絶対に逃さないほうがいいと思います。

武蔵野美術大学大学院第一期の入試は10月で、試験の内容は筆記試験（2千字の小論文）と面接の2部によって構成されます。出願の時に、2m×2mの設計模型、研究計画書、過去の論文の概要、ポートフォリオ、手書きの作品設計図などを提出しなければなりません。芸術系の学生にとっては、自分の作品の質は試験の結果を左右すると言っても過言ではありません。大学在学中、設計模型を作った経験がなかったので、作品を完成させるのに大変苦労しました。私自身、専門知識と技術が不足していることを自覚しているので、美術の塾で半年位模型製作、デッサンの特訓を受けました。日本の美大の教授は学生のデッサンなどの基本技能を重視していると聞きました。そのため、自分の手書きの設計図にたくさんの時間を使い、何度も描き直してやっと満足できるものを完成させました。設計図、模型を作成する間に、何度も徹夜をしてやり直して、やっと締め切りに間に合いました。

9月中旬から10月の2週間はほぼ毎日学校の教務室に通い、研究計画書の添削、面接練習などをして頂きました。先生方は私の研究計画書を内容から表現などの細かいところまで何度も直して下さいました。夜8時、9時まで面接の練習、出願書類のチェックをして下さったことも何度もありました。自分が合格できたのは本当に先生方のおかげだと思っています。本当にお世話になりました。諸先生方、心から感謝しています。後輩の皆さん、是非自分の夢に向かって頑張ってください！

2013年3月6日